

令和元年6月21日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K01762

研究課題名(和文) 途上国における健康教育の一般教科への統合内容分析 - 衛生教育への宗教の影響

研究課題名(英文) Analysis of integration of health education into general subjects in developing countries

研究代表者

竹内 理恵 (TAKEUCHI, Rie)

長崎大学・熱帯医学研究所・戦略職員

研究者番号：00623084

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：3か国のうちフィリピンでは健康教育がカリキュラムに含まれ、ケニア、ニジェールでは含まれていなかった。一方、宗教教育はフィリピンでは含まれずケニア、ニジェールでは含まれていた。語学、理科、社会、宗教等の教科書に健康に関する話題が含まれており、一般教科への統合は問題なく実施されていると示唆された。含まれる話題は衛生教育、病気やケガ、栄養、安全、環境、災害、社会問題等で、国により重点配分は異なっており、また、国の状況を反映する話題も取り上げられ、ニジェールでは衛生教育、干ばつに関する問題、ケニアではHIV/AIDSや交通事故、フィリピンでは台風の影響など、それぞれの国の問題を正確にとらえていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

教科書の健康教育に関する内容分析研究はあまり多くされておらず、報告されているもののほとんどが先進国にて実施されたものである。先進国での学校保健ベースの健康対策が報告され始める中、健康教育がカリキュラムに含まれない途上国での健康教育の普及を目指すうえで一般教科への健康教育の統合は重要であり、本研究は途上国における学校保健をベースとした健康対策の実現可能性を探る上で極めて重要である。また途上国では宗教教育がカリキュラムに含まれることが多く、その教育に対する影響も無視できない。特にイスラム教育を含んだイスラム圏での教科書分析は今までほとんどなく重要である。

研究成果の概要(英文)：Of the three countries, health education was included in the curriculum in the Philippines and was not included in Kenya and Niger. On the other hand, religious education was not included in the Philippines but was included in Kenya and Niger. Textbooks on language, science, social studies, religion, etc. included health topics and it was suggested that integration into general subjects was implemented smoothly. Topics included are hygiene education, diseases and injuries, nutrition, safety, environment, disasters, social problems, etc.. The priority distribution varies from country to country, and topics reflecting the state of the country are also taken up, for example, hygiene education, drought issues in Niger, HIV / AIDS and traffic accidents in Kenya, and typhoons in the Philippines. Those were capturing issues in each country.

研究分野：学校保健

キーワード：学校保健 健康教育 途上国

1. 研究開始当初の背景

開発途上国における健康問題、特に感染症の蔓延は深刻であり、その対策が必要とされている。国際開発プログラムでは、おもにコミュニティベースや学校保健ベースで感染症対策が行われている。最近の学校保健は、世界保健機関(WHO)、UNICEF、世界銀行等が提唱する「包括的学校保健」が主流であり、このコンセプトは(1)ポリシー、(2)環境整備、(3)健康教育、(4)保健サービスおよび駆虫の4点の要素から構成されている。(1)から(4)すべての要素が揃うことが大切であるが、今回は特に感染症対策に有効である(3)の健康教育に焦点を当て調査を行った。なぜなら、感染症に感染する要因の一つが人々の危険行動であり、この危険行動はほぼ習慣となっていることが多いため、行動習慣に対して柔軟である学童を対象に健康教育を行うことで行動変容を促し、良い習慣を身につけ、大人になった時に危険行動をとらないようにすることが重要でありそれを担う活動が健康教育である。また、学童は教育に対し受け身であるだけでなくコミュニティへの情報発信を行うメッセンジャーとなり、直接健康教育を受けていない大人への波及効果も見られると報告されている(参考文献1、2)。このように、学童への健康教育には非常に大きな可能性が秘められている。

しかしながら、我々のこれまでのアジア、アフリカでの経験上、途上国の学校教育のカリキュラムには健康教育が含まれていることは少なく、それを実施するためには課外授業、または既存の時間割を割いてあてる必要があり、教師からの抵抗も少なくない。そのため、学校で一般的に行われる授業で使用される教科書の内容に健康関係の話題を含めることで、自然と学童が知識を学んでいくことができるようにする必要がある。また一方海外では、初等教育のカリキュラムに宗教の時間が含まれていることが多く、その時間に宗教自体を学ぶ以外に、その宗教の教えに沿った道徳的なことや衛生観念なども教えられている場合がある。例えばコーランでは豚肉を「不浄」として食を禁止しており(本当の理由は分かっていないが)それにより結果的に一部の寄生虫感染が予防されている。また、一般教科の教科書の内容(読み書きの教科書の物語など)もその国の宗教観が影響することが多い。以上より、初等教育における一般教科で使用される教科書への健康に関する話題の統合は非常に重要と考えられる。しかしながら一般教科書の内容について、東南アジア、アフリカの仏教、キリスト教圏では少ないながらも報告があるが(参考文献3、4)、イスラム圏の現状はいまだ十分に調査されていない状況である。そのため、今回イスラム圏、またはキリスト教とモスリムが混在する3か国について、宗教の違いによる健康教育の内容の比較検討を行った。

2. 研究の目的

本研究では公衆衛生問題対策アプローチとしての学校保健をベースとした活動の実証報告のない地域であるイスラム圏での普及についてその効果を検討する。学校保健ベースの活動は、学童を直接対象とするが、コミュニティへの波及効果も狙った取り組みである。途上国では一般教科や宗教の時間に触れられる健康に関する話題が情報源となることが多い。今回はイスラム圏の初等教育の教科書に掲載される健康に関する情報を調査するとともに、各国の違いなどを比較検討した。

3. 研究の方法

途上国で使用される一般教科書に統合されている健康に関する話題の内容について、カリキュラムの違いや宗教の違いによる比較を実施するため、イスラム教育中心のニジェール、キリスト教に少数のモスリムの混在するケニア、フィリピンの3か国において、初等教育のカリキュラムを担当省庁から入手し比較を行った。またカリキュラム分析と並行し、すべての教科において使用される教科書を対象3か国で収集し、ケニアの教科書のうちスワヒリ語で、またフィリピンの教科書のうちタガログ語で書かれたものは英語、ニジェールの教科書のうちアラビア語で書かれたものはフランス語へ翻訳を依頼し、まず教科書の内容に含まれる健康に関するトピック(衛生、病気、ケガ、栄養、運動、安全に関係するもの)の抜粋をそれぞれの研究者が独立して行い、その後それぞれが抜粋した個所について検討を行った。

4. 研究成果

ケニア 96冊、ニジェール 30冊、フィリピン 28冊、合計 154冊を収集した(表1)。ケニアとニジェールでは教科書が市販されており、供給量が比較的豊富なケニアでは比較的容易に教科書の入手ができたが、ニジェールでは供給量が少なく、教育省管轄の出版元においても教科書の入手が困難で、30冊のうち4冊は教員の指導教本を教科書の代わりに入手した。フィリピンでは教科書は市販されておらず、研究協力者の関係小学校が使用する教科書のコピーをすることとなった。また、ケニアでは複数の出版社が教科書を出版しており、どの教科書を使用するかは各学校独自の判断で決定される。

ケニア、ニジェールではカリキュラムに保健は含まれていなかったが、フィリピンでは保健の教科がカリキュラムに採用されていた。一方、宗教教育はケニア、ニジェールではカリキュ

ラムに含まれていたが、フィリピンでは含まれておらず、課外授業として実施されるとのことであった(表2)。さらに、ケニアでは教育省の方針として健康に関する話題をすべての一般教育科目に含めることが推進され、教育省が発行する初等教育シラバス(参考文献5)にも明記されている。

表1. 収集した教科書

	ケニア(8年制)	ニジェール(6年制)	フィリピン(6年制)
語学	英語1-8年x3社 スワヒリ語1-8年 x3社	フランス語 言語1-4年 読み書き1-6年 アラビア語1-4年	英語2-5年 タガログ語 言語2-3年 読み1-5年
自然科学	理科1-8年x2社	理科3-6年	算数2-4,6年 理科3-5年
社会	社会1-8年x2社	地理6年 歴史6年	社会4年 歴史2年
その他	キリスト教1-8年 x1社 イスラム教1-8年 x1社	イスラム教1-6年 市民教育と道徳5,6年用 スキル教育全学年用	道徳2-4年 音楽・芸術・健康教育2-4年 衛生教育4年 イスラム道徳(課外授業用)1年

表2. 各国の小学校教育カリキュラムに含まれる教科

	ケニア	ニジェール	フィリピン
語学	英語 スワヒリ語	フランス語 アラビア語(一部学校)	英語 タガログ語 地域言語
自然科学	算数 理科	算数 理科	算数 理科
社会	社会	地理 歴史	社会 歴史
その他	宗教	宗教 市民教育と道徳 スキル教育	道徳 音楽・芸術・保健体育

今回、収集調査した教科書の大多数に健康に関する話題が含まれており、特にケニアでは国の方針に従いすべての教科書に健康に関する話題が含まれていた(表3)。含まれていた話題は多岐にわたり、衛生教育、病気、ケガ、栄養、安全、環境、健康の権利などであった(表4)。理科の教科書では病気の原因、感染経路、症状、予防方法等、病気そのものの直接的な説明がされていることが多く、語学の教科書では物語で登場人物の病気やケガをする過程から症状の描写、それに対する対応や治療、治癒の経過、病気やケガをしたときにおこる問題、健康の重要性などが包括的に描かれていることが多かった。社会や市民教育、道徳では環境衛生、環境破壊や公害による健康問題やドラッグ、たばこ、アルコールなどの社会問題に起因する健康問題、交通安全などについて取り上げられていた。イスラム教の教科書では主に自身の身体や身の回り、地域を清潔に保つことの重要性やアルコールの危険性を宗教の観点から説いており、実際の行動(手洗い方法や屋外での排泄行為禁止等)についての話が含まれていた。一方ケニアのキリスト教の教科書には子供の権利の話題から治療を受ける権利について述べられていた。フィリピンの健康教育の教科書は身体健康から精神衛生まで幅広く取り上げられていた。含まれていた情報はほぼ正確であったが、ケニアの1教科書において住血吸虫症の感染経路に誤りを発見した。またニジェールの2教科書においてマラリアの治療薬のアップデートがされていなかった。

表3. 健康に関する話題が含まれていた教科

	ケニア	ニジェール	フィリピン
語学	英語 スワヒリ語	フランス語 アラビア語	英語 タガログ語
自然科学	理科	理科	理科
社会	社会		社会
その他	キリスト教 イスラム教	イスラム教 市民教育と道徳	道徳、イスラム道徳 音楽・芸術・健康教育 衛生教育

表4．含まれていた話題

衛生教育	自身の衛生（体、身の回りのものを清潔に保つメッセージ、方法） 周囲の衛生（家、学校、地域を清潔に保つメッセージ、方法）
病気・ケガ	病気、ケガの原因、症状、対応、予防法等 予防接種
栄養	バランスダイエット 運動
安全	身の回りの危険（家、学校、地域、交通等）
環境	環境破壊 公害 それらによって引き起こされる健康問題
その他	ドラッグ たばこ アルコール 災害によって引き起こされる健康問題 健康の権利

取り上げられている話題の大きな分類は3か国で共通していたが、重点配分は異なっており、ニジェールでは衛生教育や感染症が多く取り上げられ、ケニアでは国を挙げて取り組んでいるHIV/AIDS対策によりHIV/AIDSに対する教育がすべての教科にまんべんなく取り入れられていた。また、取り上げられている病気の種類では3か国それぞれの国において重要なものが含まれている傾向にあり、またそれ以外にも近年交通事故が社会問題となっているケニアでは車による事故の話題、干ばつがたびたび起こるニジェールでは干ばつの問題、毎年多くの台風に見舞われるフィリピンでは台風が引き起こす問題や避難指示の説明や対処方法等が取り上げられていた(表5)。また栄養の話題では、それぞれの国で日常的に食べられている食品を取り上げ、その栄養について説明されており、それぞれの国の背景を考慮した内容になっていると言える。

表5．教科書に取り上げられている病気の種類と国ごとに特徴のある話題

	ケニア	ニジェール	フィリピン
病気	虫歯 マラリア 結核 下痢 HIV/AIDS 住血吸虫症 寄生虫感染 性病 コレラ 腸チフス アメーバ赤痢 食中毒	虫歯 マラリア 結核 下痢 HIV/AIDS 住血吸虫症 麻疹 狂犬病 破傷風 髄膜炎 結膜炎 トラコーマ 夜盲症 オンコセルカ症 ギニアウォーム	虫歯 マラリア 結核 腸チフス 寄生虫感染 麻疹 狂犬病 水疱瘡 赤痢 デング熱 おたふく
その他	車による交通事故	干ばつが引き起こす健康問題	台風が引き起こす健康問題

今回調査した3か国のうち、健康教育がカリキュラムに含まれていないケニアとニジェールでは一般教科の教科書に健康に関する話題が多く含まれていること、またケニアではそれを国が方針としていることが分かった。フィリピンでは健康教育がカリキュラムに含まれ健康に関する教育はこの教科の際に実施されるが、一般教科の教科書にも健康に関する話題が含まれていることが分かった。宗教教育では科学的なアプローチではなく宗教的なアプローチにより健康行動を促進する可能性が示唆された。今回は教科書内容のみの調査で、学童が実際どう感じているかは未調査のため実際の学童への影響はわからないが、語学の教科書の物語により、ロールプレイングのような感覚で病気やケガ等健康に関することを学ぶことで、より簡単に情報を理解し、実際の行動に移すことができるのではないと思われる。また、実際、学童への健康教育が地域全体の健康問題に及ぼす影響を測るには現在の学童が大人になるまで観察し続けなければならないため、短時間で結果を求めることはほぼ不可能であるが、学童への直接的な影響を測りながら長期間のモニタリングを行っていきたい。

<参考文献>

1. Nonaka D, Kobayashi J, Jimba M, Vilaysouk B, Tsukamoto K, Kano S, et al. Malaria education from school to community in Oudomxay province, Lao PDR. Parasitol.Int. 2008

Mar;57(1):76-82.

2. Ayi I, Nonaka D, Adjovu JK, Hanafusa S, Jimba M, Bosompem KM, et al. School-based participatory health education for malaria control in Ghana: engaging children as health messengers. Malar J. 2010 Apr; 18; 9:98.

3. Nonaka D, Jimba M, Mizoue T, Kobayashi J, Yasuoka J, Ayi I, Jayatilleke AC, Shrestha S, Kikuchi K, Haque SE, Yi S. Content Analysis of Primary and Secondary School Textbooks Regarding Malaria Control: A Multi-Country Study. PLoS ONE 2012 7(5): doi:10.1371/journal.pone.0036629

4. Saito J, Nonaka D, Mizoue T, Kobayashi J, Jayatilleke AC, Shrestha S, Kikuchi K, Haque SE, Yi S, Ayi I, Jimba M. Limited potential of school textbooks to prevent tobacco use among students grade 1-9 across multiple developing countries: a content analysis study. BMJ Open 2013 3:e002340 doi:10.1136/bmjopen-2012-002340

5. Ministry of Education, Republic of Kenya. Primary Education Syllabus. Kenya Institute of Education 2002.

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

1 .

発表者 : Rie Takeuchi, Sammy M Njenga, Jun Kobayashi

発表表題 : Malaria in the primary school textbook ~ How is it described? ~

学会名 : Joint International Tropical Medicine Meeting 2018

発表年 : 2018 年

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

なし

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名 : 小林 潤

ローマ字氏名 : (KOBAYASHI, Jun)

所属研究機関名 : 琉球大学

部局名 : 医学部

職名 : 教授

研究者番号 (8 桁) : 70225514

(2)研究協力者

研究協力者氏名 : ジェンガ サミー

ローマ字氏名 : (NJENGA, Sammy)

研究協力者氏名 : ドウライ ブレイマ

ローマ字氏名 : (DOULAYE, Boureima)

研究協力者氏名 : アーネスト グレゴリオ

ローマ字氏名 : (ERNEST, Gregorio)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。